

台湾に対する懲罰か？米国に対する挑戦か？

——ホンジュラスと国交を樹立した中国の狙い

地域研究部中国研究室 五十嵐 隆幸

はじめに

2023 年 3 月 14 日、ホンジュラスのシオマラ・カストロ大統領は、中国との国交樹立に向けて動くよう外相に指示したことを明らかにした。カストロは大統領選挙戦中に中国と外交関係を結ぶ考えを打ち出していたが、2022 年 1 月の当選後に台湾との外交関係を維持する意向を示していた¹。しかし 2023 年 3 月 26 日、中国外交部はホンジュラスとの国交樹立を発表した²。2016 年 5 月の蔡英文政権発足以降、7 年間で台湾と断交した国は 9 か国に上り、外交関係を維持する国は 13 か国と過去最少となった。

今回のホンジュラス切り崩しについて、蔡英文が中米 2 か国歴訪の途中で米国に立ち寄ることを前に、蔡英文とその訪問を認めた米国に対するけん制だとの見方が強い³。断交発表の翌日、中国共産党機関紙『人民日報』傘下の環球時報は、「ホンジュラスは台湾との最後の“断交”国家ではない」と題する社説を掲載し、「さらなる“断交”の波が待ち受けるであろう」と警告のメッセージを発した⁴。

総統選挙まで 1 年を切り、これから繰り広げられる選挙戦の過程で、中国は「断交カード」をちらつかせて影響力工作を活発化させてくるかもしれない。しかし、陳水扁政権 8 年間の 10 か国、蔡英文政権 1 期目 4 年間の 7 か国と比べ、2020 年 5 月からの蔡英文政権 2 期目の 3 年間で断交は 2 か国とペースが落ちている。陳水扁政権や馬英九政権は 2 期目に入ると支持率が急落し、任期満了まで 2 年を切る頃にはレームダック化していたが、蔡英文政権は 40% 台の高い支持率を維持している。にもかかわらず、中国が「断交カード」を切ったのは、2021 年 12 月のニカラグアと今回のホンジュラスのみであり、2022 年 8 月にナンシー・ペロシ下院議長が台湾を電撃訪問した際も「断交カード」は切られなかった。なぜ、中国が「断交カード」を切って外交圧力をかける頻度が減っているのでしょうか。もしかすると、中国にとって「断交カード」を切る狙いが変わってきているのではなかろうか。本稿では、蔡英文政権期における断交の背景を振り返り、中国が「断交カード」を用いる傾向について分析したうえで、ホンジュラスと国交を樹立した中国の狙いについて考察し、今後の「断交」をめぐる米中台関係を展望する。

第 1 期蔡英文政権（前半：2016.5～2018.5）ートランジット訪米時期

2016 年 5 月 20 日、蔡英文は総統就任式典において、中台関係の「現状維持」を堅持する考えを明確に示した⁵。台湾では総統候補として党の公認を受けると、あたかも「面接試験」を受けるように訪米し、米国政府などの要人と意見交換をするのが慣例となっており、1 年前に民進党の総統候補に決まった蔡英文が訪米した際、米国側は蔡の対中姿勢を前向きに評価していた⁶。いわば、就任演説で蔡英文が掲げた対中政策は、米国の「お墨付き」を得た内容であった。

そして総統就任の翌月、パナマのファン・カルロス・バレラ大統領から運河拡張の竣工式に招待された蔡英文は、総統就任後初めての外遊に先立ち、「金銭外交」と批判されていた過去の一方的な援助外交の転換を表明し、二国間の対話を通じて互惠互助を追求する「堅実な外交」を新政府の外交思想として示した⁷。往路、トランジットのためマイアミに降り立った蔡英文一行を米国在台協会（AIT）ワシントンオフィス所長のジョセフ・ドノバンらが出迎え、連邦議会の上下院議員らと会談したのち、パナマへと飛び立った⁸。パナマに続き、蔡英文はパラグアイを訪問し、復路はロサンゼルス経由で帰途に就いた⁹。このように外交関係を有する中南米諸国を訪問する際、米国に立ち寄って台湾に友好的な連邦議会議員らと会談していたのだが、それは全て控えめに行われ、報道にも制限がかけられていた。

ところが、蔡英文の総統就任から半年後、米台関係に変動の兆しが見え始めた。米国大統領選挙に当選したドナルド・トランプがツイッターに「今日、台湾の総統から 当選を祝う電話があった。ありがとう！」と書き込み、蔡英文と電話会談を行ったことを明かした。1979 年の断交以来、米国の大統領や次期大統領と台湾の総統とのやり取りが公になったのは初めてのことであり、驚愕した中国政府は、米国政府に対して「一つの中国」原則の堅持を求めると同時に¹⁰、台湾側の行為を「小細工」と批判した¹¹。さらに、トランプが「『一つの中国』原則には縛られない。維持していくか否かは中国の対応次第だ」と述べると、中国は強い懸念を表明し¹²、それから間もなくサントメ・プリンシペが台湾との断交を発表¹³、中国がサントメ・プリンシペとの国交樹立を発表した¹⁴。トランプ政権の誕生によって台湾では、米台関係発展への期待が高まったが、反対に中台関係が悪化するのではないかとの不安も入り混じっていた。

年が明けて 2017 年 1 月、蔡英文は大統領就任式出席のためニカラグアを訪問し、あわせてホンジュラス、グアテマラ、エルサルバドルを歴訪した。その際、往路は米国のヒューストン、復路はサンフランシスコをトランジット訪問した¹⁵。この中南米歴訪は、ちょうど米国の政権移行期と重なっていた。トランプは選挙後も中国に対して挑発的な言動を繰り返していたのだが、大統領就任から間もなく習近平国家主席との電話会談が設定され、4 月には習近平をフロリダの別荘に招き、両首脳は北朝鮮の核開発を共通の問題と捉えて良好な関係を築いていった¹⁶。首脳往来が表すように米中関係が安定的に進展するなか、

6 月 13 日にパナマが台湾に対して電撃的に断交を通知してきた。パナマとは建国以来 107 年にわたって外交関係を維持してきただけに、台湾にとっては衝撃的な外交上の敗北であった¹⁷。

蔡英文政権発足以降、中国が台湾の友好国の切り崩しを進めていくなか、習近平は 10 月に中国共産党第 19 回全国代表大会を終え、第 2 期政権をスタートさせた。その閉幕から 4 日後、蔡英文はマーシャル諸島、ツバル、ソロモン諸島の歴訪に出発し、往路はホノルル、復路はグアムを経由した¹⁸。2012 年の習近平政権発足以降、中国は太平洋島嶼国とのハイレベル交流を活発化させており、2014 年に習近平がフィジーを訪問した際、太平洋島嶼国 8 か国との首脳会談で「一帯一路」構想と太平洋島嶼国が結びつけられていた¹⁹。蔡英文は、南太平洋の友好国のつなぎ留めに奔走していた。

他方、米中間には、経済や貿易に関する問題が積み重なっていた。11 月にトランプが初訪中を終えて帰国すると、年末に米国政府が「国家安全保障戦略」を発表し、中国を「現状変更勢力」と批判したうえで、過去の政策が間違いであったと記された²⁰。米国政府が中国への警戒感を顕わにするなか、2018 年 4 月に蔡英文はエスワティニ建国および外交関係樹立 50 周年に参加するためアフリカを訪問した²¹。そして、蔡英文の帰国から 10 日後、中国政府はドミニカ共和国との国交樹立を発表した²²。5 月 24 日には台湾の外交部が緊急記者会見を開き、ブルキナファソから外交関係断絶を通告されたことを発表した²³。台湾が 1 か月以内に 2 か国と断交するのは、李登輝政権下の 1998 年以来 20 年ぶりのことであった。

第 1 期蔡英文政権（後半：2018.5～2020.5）—米国「台湾旅行法」成立後

2018 年 5 月に「断交ドミノ」に見舞われた 2 か月半後、蔡英文はパラグアイ大統領の就任式に参加するため、8 月 12 日に中南米諸国歴訪へ向けて出発した。総統就任後 4 回目となる外遊では、パラグアイのほかベリーズの訪問が計画されていたのだが、慣例となっている米国トランジット訪問の際、歴代総統が為し得なかったほど大きな外交成果を収めることとなった。往路では、レーガン大統領図書館で講演を行い、帰路では、連邦政府機関である航空宇宙局（NASA）を公式訪問したことが大々的に報じられた。3 月に米台双方の政府高官による往来の促進を定めた「台湾旅行法」が成立しており、蔡英文の訪問にそれが適用され、米国滞在期間中の報道規制も解除された²⁴。そして、蔡英文が台湾に戻った翌 21 日、中国はエルサルバドルが台湾と断交し、中国と国交を樹立したことを発表した²⁵。蔡英文訪米への「懲罰」のタイミングであったが、それ以上に蔡英文を厚遇した米国に対する「警告」の意味が込められていた。

こうして中国が台湾に外交面で圧力をかけていくなか、米国では中国に強硬な意見が強まっていた。10 月 4 日にマイク・ペンス副大統領がハドソン研究所でトランプ政権の対中政策について講演した際、「これまでの政権が中国にかけてきた期待は実現しなかった」と中国を厳しく批判した²⁶。

2019 年 1 月 2 日、米中国交樹立を機に鄧小平が発表した「台湾同胞に告げる書」の 40 周年を記念して習近平が重要演説を行い、「一国二制度による台湾統一」を強調すると、蔡英文は 2 時間後にそれを拒否する談話を発表した。このレスポンスが高く評価され、台湾では蔡英文の支持が広がった。習近平の決意表明は、前年 11 月の統一地方選挙で大敗し、次の総統選挙に向けて劣勢に立たされていた蔡英文にエールを送る形となった。蔡英文が中国の統一攻勢に屈しない姿勢を強く打ち出していくなか、蔡英文は 3 月 21 日にパラオ、ナウル、マーシャル諸島の歴訪に出発、復路ハワイ経由で 26 日に台湾に到着した²⁷。その 5 日後、中国軍機が台湾海峡の中間線を越えた。2017 年 10 月の第 19 回党大会以降、中国軍機による台湾の周回飛行など威嚇的な活動が増えていたが²⁸、事実上の停戦ラインを越えるのは極めて異例の事態であった。そして、6 月に香港で「逃亡犯条例」に反対する大規模な抗議活動が起きると、台湾の住民はメディアを通じて映し出される香港に「明日の台湾」を想起し、中国への警戒を強めていった。

香港の大規模抗議活動から約 1 か月後の 7 月 11 日、蔡英文は 2016 年の総統就任以来未訪問であったハイチ、セントクリストファー・ネイビス、セントビンセント・グレナディーン、セントルシアの歴訪に出発した。往路でニューヨークに立ち寄った蔡英文は、コロンビア大学で講演を行うほか、連邦議会議員が主催するレセプションに参加した。帰路、デンバーに立ち寄った蔡英文一行は、米エネルギー省に所属する国立再生可能エネルギー研究所（NREL）などを訪問した²⁹。2018 年 3 月の「台湾旅行法」成立後、最初の訪米での NASA に続き、政府機関を公式訪問し、それが大々的に報じられた。

こうして中国への警戒感の高まりや、外交上の成果を背景に、総統選挙に向けた世論調査で蔡英文の支持率がトップに上がった。しかし、9 月 16 日にソロモン諸島、20 日にキリバスから相次いで断交が伝えられた。わずか 4 日で友好国を 2 か国失い、残り 15 か国と総統選挙にも影響しかねない苦しい立場に立たされたのだが、蔡英文は「中国の金銭外交とは張り合わない」と述べ、中国を批判した³⁰。この頃になると、台湾の外交官からも、「金銭的な援助で国交相手を乗り換える国を繋ぎ止める必要は無い」、「価値観を同じくする友好国に外交資源を集中するほうが得策だ」といった声が上がり始めていた。

第 2 期蔡英文政権（初期：2020.5～2021.12）—米国の政権移行期

2020 年 1 月の総統選挙において、蔡英文は史上最多得票で再選を決めた。2 期目が決まった蔡英文政権は、新型コロナウイルスが世界中に広がるなか、外交関係がある 15 か国のほか、日本や欧米諸国に医療物資を贈るなど、国際社会に台湾の存在感を示していった。そして、5 月 20 日の就任演説で蔡英文は、「我々は引き続き国際機関への参加を目指し、国交を有する国々との共栄と協力を強めていくとともに、米日欧など価値観を同じくする国々とのパートナーシップを深めていく」との外交方針を掲げた³¹。

国際社会が新型コロナウイルスの感染拡大で混乱するなか、7 月 30 日に李登輝元総統が亡くなると、米国政府はアレックス・アザール厚生長官とジェームズ・モリアーティ AIT 理事長を弔問外交という形で台湾に派遣し、これを機に防疫協力強化の覚書 (MOU) を締結した。米台間で覚書が交わされたのは、1979 年の断交後初めてのことであった³²。9 月 17 日には、李登輝元総統の追悼式参加のため、キース・クラック国務次官が台湾を訪問し、蔡英文との会談で今後の交流拡大を確認した³³。米国政府高官の相次ぐ訪問の間、8 月 30 日にはチェコのカミロシュ・ビストルチル上院議長率いる訪問団 89 名が中国の圧力を受けながらも台湾を訪問し、蔡英文総統らと会談したほか、経済貿易分野の覚書を締結した。同時期、訪欧中の王毅中国外交部長がビストルチルの訪台を批判したところ、スロバキアのズザナ・チャプトヴァー大統領がその発言を受け入れられないと表明し、これに欧州諸国の政府や議会関係者も続いた³⁴。新型コロナウイルスに対する防疫や積極的な対外支援が功を奏し、台湾を支持する声が高まっていた。

その後、米国大統領選挙で台湾側が「親中」と見ていたジョー・バイデン候補の勝利が固まるなか、トランプ政権は台湾に対して友好的な政策を取り続けた。政権交代まで 2 週間を切った 2021 年 1 月 8 日には、国連大使就任以降台湾の国連加盟に支持を表明し続けたケリー・クラフトの訪台が発表された³⁵。クラフト訪台は、政権交代の引継ぎが優先されたために中止となったのだが、トランプ政権 4 年間における米台関係は、「台湾旅行法」が成立し、米台双方の政府高官による公式訪問が実現するほど、その進展は目を見張るものがあった。そのため、台湾では「親台」のトランプ政権から、バイデンへと政権交代することに不安が広がっていた。しかし、2021 年 1 月 20 日のバイデン政権発足からわずか 3 日後、国務省が中国に対して台湾へ軍事的、外交的、経済的圧力をかけるのをやめるように呼び掛けると同時に、台湾との関係を深化させ、インド太平洋地域の平和と安全の維持のため、台湾の自衛能力維持を支援する考えを表明した³⁶。バイデン政権が発足直後に前政権の台湾に友好的な政策を踏襲する姿勢を示したことは、台湾側の不安を払拭させる効果があったが、反対に中国側の反発を招くことを意味していた。

ソロモン諸島とキリバス以降、太平洋地域で中国による台湾の友好国切り崩しは起きていない。ツバルなどが手を組み、中国の圧力に抵抗しているのであろう³⁷。その太平洋島嶼 4 か国と台湾との結束を前に、中国の照準は中南米に移っていた。2021 年 3 月には、中国がパラグアイに対し、ワクチン提供の条件として台湾との断交を迫っていた³⁸。また、6 月にグアテマラのジャマティ大統領がロイターの取材で、隣国ホンジュラスがワクチン提供をカードに中国から揺さぶりをかけられていることを明らかにした³⁹。

このように中国がワクチン外交を展開するなか、米国は「民主主義サミット」を開催することを発表した⁴⁰。そして 11 月 23 日、国務省が公表した参加リストでは、アルファベット順で 101 番目に「Taiwan」と記されていた⁴¹。こうして迎えたサミット初日の 12 月 9 日、ニカラグアが台湾と断交し、中国と国交回復することを発表した⁴²。ニカラグアでは、11 月に現職大統領が 4 選を決めていたが、欧米諸国はこ

れを公正な選挙とは認めず、経済制裁を課していた⁴³。さらにバイデン政権は、中南米諸国のうち台湾と外交関係を持つグアテマラ、ホンジュラス、ニカラグア、ハイチの 4 か国を民主主義サミットに招待していなかった。中国は、12 月 4 日に「中国の民主」と題する白書を発表するなど、米国が掲げる民主主義を批判するキャンペーンを繰り広げてきたが、「米国の裏庭」で反米色を強めるニカラグアに接近し、台湾との「断交カード」を切ることで、ニカラグアと対米共闘を演出することに成功したのである。

第 2 期蔡英文政権（中期：2022.1～）

2022 年 1 月 25 日、頼清徳副総統は、蔡英文総統の特使としてホンジュラスの大統領就任式に出席するため、台湾を出発した。頼清徳一行は、往路でロサンゼルス、復路でサンフランシスコに立ち寄り、米国政府高官と意見を交換し、30 日に帰国した⁴⁴。ホンジュラスで頼清徳は、同じく大統領就任式に参加したカマラ・ハリス米副大統領と会話を交わし、中国外交部はそれを批判する声明を発した⁴⁵。頼清徳は、2020 年 1 月の総統選挙後、5 月の副総統就任を前に訪米した際、大統領が出席する大規模な朝食会に招待され、最前列のポンペオ国務長官の隣に席が用意される「異例の厚遇」で迎えられていた⁴⁶。

2 月 24 日にロシアがウクライナに侵攻を始めると、台湾社会に「今日のウクライナは、明日の台湾」という言葉が広がり、中国の台湾侵攻への警戒感が高まりを見せた。3 月下旬に行われた世論調査では、「米軍が台湾の防衛を助けるために参戦すると思うか？」との質問に対し、「すると思う」が前回 10 月の 65%から 34.5%に急落し、「しないと思う」が 28.5%から 55.9%に急増する結果が示された⁴⁷。3 月初旬にバイデン政権が「台湾を安心させる」ためにマイク・マレン元統合参謀本部議長が率いる超党派訪問団や、ポンペオ前国務長官らを台湾に派遣し、蔡英文らに「アメリカは西太平洋地域と台湾海峡の安全保障を重視している」とのメッセージを送ったが⁴⁸、その効果は期待するほど大きくなかったようである。

その後も米国からは、重量級議員が陸続と台湾を訪問し、蔡英文ら要人と会談を繰り返しているが、中国のみならず国際社会にインパクトを与えたのは、ペロシ下院議長の電撃訪台であろう。アジア歴訪中のペロシは、8 月 2 日 22 時過ぎに台北に到着、翌 3 日午前には蔡英文総統ら要人と会談、午後には立法委員と懇談し、夕方には台湾を離れた⁴⁹。ペロシ訪台を受け、中国は台湾を取り囲むように設定した 6 か所のエリアにおいて「重要軍事演習」を行うと発表した⁵⁰。ペロシらが台湾を離れた 4 日以降、人民解放軍は台湾周辺で 11 発のミサイル発射を行い、一部のミサイルは台湾上空を超えて台湾東部海域に着弾したと報じられた。また、空軍機が台湾海峡の中間線を超えて飛行する事例が激増し、国防部は 5 日までの統計で延べ 68 機が中間線を越えたと公表した。また、中国メディアが、演習期間中に米軍の偵察機 7 機が台湾周辺を飛行したと報じるなど、台湾海峡をめぐり米中台の間で緊張が高まる様子が報じられた⁵¹。

ペロシの訪台後も解放軍による軍事的な圧力が続くなか、台湾で広がる「疑米論」を払拭するかのよう
に米国議員の訪台が続いた。一方、対米外交のみならず、蔡英文政権が掲げる「堅実な外交」も繰り広げ
られていた。頼清徳は 10 月 5 日から 10 日までの間、新型コロナウイルスの感染拡大で観光業に大打撃
を受けているパラオを訪問した。ホイ・シュレン大統領らと会談した頼清徳は、パラオの観光や衛生分野
に対する協力を約束した⁵²。このように蔡英文政権は、2 期目の 3 年目を迎えても米国との良好な関係を
保ち、その支持率も 40% 台を維持していたが、11 月下旬に実施された統一地方選挙では与党・民進党が
惨敗し、蔡英文は兼務していた党主席を辞任した。そして、2023 年 1 月 15 日に実施された党主席補選
で頼清徳が当選し、18 日に新主席に就任した。民進党の総統候補は、頼清徳に絞られつつあった⁵³。

こうして台湾の政局に落ち着きが見られる頃、米国でも 2022 年 11 月の中間選挙後、下院議長に選出
されたケビン・マッカーシーが訪台の意向を示していた。しかし、台湾側はペロシ訪台時のような軍事的
緊張を避けるため、蔡英文が 4 月初旬に中南米諸国を歴訪する際に立ち寄る米国国内での会談を提案し、
マッカーシーがそれを受け入れたことが 3 月上旬に報じられた⁵⁴。この報道に対し、中国外交部は 3 月 8
日の定例記者会見において、米国政府に対して厳重に抗議し、説明を求めていることを明らかにした⁵⁵。
それから約 1 週間後の 14 日、ホンジュラスのカストロ大統領が中国との国交樹立に向けて動くよう外相
に指示したことを明らかにし、26 日に中国外交部はホンジュラスとの国交樹立について談話を発表した。

ホンジュラスが台湾と断交して中国と国交を樹立したことについて、月末から始まる中米諸国歴訪に
合わせて訪米する蔡英文への「懲罰」であり、蔡英文と会談予定のマッカーシー下院議長に対する「警告」
でもあるとの見方が強い⁵⁶。だが、蔡英文の訪米と同時期、第 2 回「民主主義サミット」が開催されるこ
とが決まっていた。3 月 22 日に国務省は、サミットには第 1 回会合よりも 8 か国多い 120 か国・地域を
招待し、前回同様に台湾の代表も参加予定であることを説明していた。ただ、台湾と外交関係を持つグア
テマラとハイチの 2 か国は前回同様に招待されておらず、一方でホンジュラスは新たな招待国として名
を連ねていた⁵⁷。1 月には、米国の国際開発庁（USAID）とホンジュラス政府が進める「ホンジュラス学
校再建プロジェクト」に台湾の参加が決まっていた⁵⁸。ホンジュラスのカストロは、選挙戦で中国との外
交関係樹立を公約として掲げており、米国も台湾も繋ぎ止めのために経済協力など進めてきた。民主主
義サミットへの招待にも、繋ぎ止めの意図が込められていたのであろう。ところが、ホンジュラスは、蔡
英文の訪米と民主主義サミットの直前というタイミングで台湾との断交を発表した。

3 月 20 日、中国は『2022 年における米国の民主状況報告書』を発表し、「米国流の基準で世界を『民
主主義』と『非民主主義』の二大陣営に区分し、公然と分裂や対立を扇動している」と第 2 回「民主主義
サミット」の開催を前に米国を批判した⁵⁹。ホンジュラスとの国交樹立は、訪米する蔡英文への「懲罰」
ではあったが、それ以上に民主主義サミットに水を差し、米国の面子を潰す意図が込められていた。

むすびにかえて

2023 年 4 月 8 日、中国人民解放軍東部戦区は、台湾周辺で 3 日間にわたって軍事演習を実施すると発表した。「台湾独立」分離勢力と外部勢力の挑発に対する嚴重な警告で、国家主権と領土を守るための必要な行動だ」と説明されている⁶⁰。これを聞く限り、蔡英文の訪米とそれを受け入れた米国に対する「警告」であることは明白である。3 日間で延べ 100 機以上の作戦機が台湾の防空識別圏に侵入し、そのうち 50 機以上が台湾海峡の中間線を越えた。特に注目すべきは、空母「山東」が初めて太平洋へ進出し、台湾の東側海域で J-15 戦闘機の発着艦を繰り返したことである。2022 年 8 月の演習よりも期間、範囲、規模は小さかったが、台湾包囲作戦の総合的なシミュレーションとして位置づけられていた⁶¹。

蔡英文の中米歴訪とほぼ同時期、台湾の馬英九前総統が中国を訪問している⁶²。また、4 月 5 日から 7 日に訪中したフランスのエマニュエル・マクロン大統領は、習近平との会談において台湾問題に触れ、「最悪なのは、欧州が米国のリズムや中国の過剰反応に追従しなければならないと考えることだ」と述べた⁶³。さらに演習最終日の 4 月 10 日、中国共産党序列第 4 位の王滬寧が、兩岸企業家サミット台湾側理事長との会談において、経済交流の促進について提起した⁶⁴。蔡英文の訪米に対する中国の対応は、「懲罰」というよりも、軍事のみならず外交や経済の手段を組み合わせた複合的かつ総合的な圧力であった。

一方でそれは、「断交カード」効果の低下を意味している。岸川毅は、80 年以上の外交関係があったホンジュラスとの断交は政府や外交関係者にとってはショッキングな出来事であったが、台湾社会に与える影響は限定的であったと指摘する。以前は断交が大々的に報じられ、政権を糾弾する材料になっていたが、今回は主要紙や市民の間で政権を責める雰囲気はなかった。「金銭外交を続けてまで、外交関係を維持する必要はない」という世論は強く、台湾の人々は過大な援助要求への嫌悪感を募らせている⁶⁵。

たしかに蔡英文政権の初期は、蔡英文の外遊から概ね半年後に「断交カード」が切られ、米国の「台湾旅行法」成立後には即座に対応する傾向が見られるようになり、台湾に対する「懲罰」や訪米した総統らの公式的な活動を認めた米国に対する「警告」の意図があったと言えよう。だが、2021 年 12 月のニカラグアとの断交に際しては、台湾側の訪米とは重なっておらず、むしろ今回のホンジュラスと共通しているのは、米国が主催する「民主主義サミット」に合わせて切った「断交カード」であった。

4 月 30 日に迫るパラグアイの大統領選挙では、その結果次第で台湾との外交関係の見直しがあるのではないかとの予想が出ている。今後、米中対立がエスカレーションする過程において、台湾の友好国を切り崩す中国の「断交カード」は、「米国の裏庭」で繰り広げる中国の米国に対する「挑戦」としての意義が強くなっていくのではなかろうか。

(2023 年 4 月 19 日脱稿)

【参考資料】

時期	訪問国	往路（訪問地）	復路（訪問地）
	断交国		
2016.6.24-7.2	パナマ パラグアイ	マイアミ	ロサンゼルス
2016.12.21	断交：サントメ・プリンシペ		
2017.1.7-15	ニカラグア ホンジュラス グアテマラ エルサルバドル	ヒューストン	サンフランシスコ
2017.6.13	断交：パナマ		
2017.10.28-11.4	マーシャル諸島 ツバル ソロモン諸島	ハワイ	グアム
2018.3	米国：「台湾旅行法」成立		
2018.4.17-21	エスワニティ		
2018.5.1	断交：ドミニカ		
2018.5.24	断交：ブルキナファソ		
2018.8.12-20	パラグアイ ベリーズ	ロサンゼルス (レーガン大統領図書館)	ヒューストン (NASA)
2018.8.21	断交：エルサルバドル		
2019.3.21-26	パラオ ナウル マーシャル諸島		ハワイ
2019.7.11-22	ハイチ セントクリストファー・ネイビス セントビンセント・グレナディーン セントルシア	ニューヨーク (コロンビア大学)	デンバー (国立再生可能エネルギー研究所)
2019.9.16	断交：ソロモン諸島		
2019.9.20	断交：キリバス		
2021.12.9	断交：ニカラグア		
2021.12.9-10	第1回「民主主義サミット」開催		
2023.3.26	断交：ホンジュラス		
2023.3.29-30	第2回「民主主義サミット」開催		
2023.3.29-4.7	グアテマラ ベリーズ	ニューヨーク (ハドソン研究所)	ロサンゼルス (レーガン大統領図書館)

- ¹ Gustavo Palencia and Ben Blanchard, “Honduras to seek China relations, pressuring Taiwan ahead of US trip,” *Reuters*, March 14, 2023.
- ² 「外交部發言人就中国和洪都拉斯建立外交關係發表談話」中国外交部 HP、2023 年 3 月 26 日。
- ³ 「ホンジュラス断交、台湾は切り崩しに危機感…中国が巨額援助で攻勢」讀賣新聞オンライン、2023 年 3 月 26 日。
- ⁴ 「社評：洪都拉斯不会是最後一個与台“断交”的国家」環球網、2023 年 3 月 27 日。
- ⁵ 「就職演説（就任演説）」中華民国總統府 HP、2016 年 5 月 20 日。
- ⁶ 松田康博「台湾にとっての米中関係一構造変化から蔡英文政権期を展望する」『国際秩序動揺期における米中の動勢と米中関係—米中関係と米中をめぐる国際関係』国際問題研究所、2018 年、201 頁；佐橋亮『米中対立—アメリカの戦略転換と分断される世界』中央公論社、2021 年、120-123 頁。
- ⁷ 「總統啓程前往巴拿馬及巴拉圭友邦訪問」中華民国總統府 HP、2016 年 6 月 24 日。
- ⁸ 「蔡總統抵達阿密 唐若文接機」中央通訊社、2016 年 6 月 25 日。
- ⁹ 「蔡總統結束巴拉圭行程 轉赴洛杉磯」中央通訊社、2016 年 6 月 30 日。
- ¹⁰ 「就美国統戰總統特郎普同台灣地區領導人通電話中国向美国有關方面提出嚴正交涉 白宮重申堅持一個中国政策」『人民日報』2016 年 12 月 4 日。
- ¹¹ 「国台辦：台方小動作不可能改变台湾是中国一部分的地位」『人民日報』2016 年 12 月 4 日。
- ¹² “Trump says U.S. not necessarily bound by ‘one China’ policy,” *Reuters*, December 12, 2016.
- ¹³ “African island nation Sao Tome cuts diplomatic ties with Taiwan,” *BBC*, December 21, 2016.
- ¹⁴ 「中国与圣普恢復外交關係」『人民日報』2016 年 12 月 27 日。
- ¹⁵ 「蔡英文總統率团出訪宏都拉斯、尼加拉瓜、瓜地馬拉及薩爾瓦多」中華民国總統府 HP。
- ¹⁶ レーガン以来、米国外交には、政権発足時は中国に対して批判的だが、徐々に柔軟で融和的な姿勢をみせるパターンが見られる。佐橋『米中対立』123 頁。
- ¹⁷ 「巴拿馬閃電断交 40 分鐘前才通知」中央通訊社、2017 年 6 月 13 日。
- ¹⁸ 「蔡英文總統率团出訪馬紹爾群島、吐瓦魯及索羅門群島」中華民国總統府 HP。
- ¹⁹ 八塚正晃「中国の太平洋島嶼国への進出と「一帯一路」構想」NIDS コメンタリー第 73 号、2018 年 5 月 25 日。
- ²⁰ White House, *National Security Strategy of the United States of America*, December 2017, p.25.
- ²¹ 「蔡英文總統率团出訪史瓦帝尼王国（原史瓦濟王国）」中華民国總統府 HP。
- ²² 「中華人民共和国和多米尼加共和国關於建立外交關係的聯合公報」『人民日報』2018 年 5 月 2 日。
- ²³ 「外交部常務次長劉德立召見布吉納法索駐臺大使尚娜对布国断絶與我外交關係表達嚴正抗議」中華民国外交部 HP、2018 年 5 月 24 日。
- ²⁴ 「蔡英文總統率团出訪巴拉圭共和国及貝里斯」中華民国總統府 HP。
- ²⁵ 「中華人民共和国和薩爾瓦多共和国關於建立外交關係的聯合公報」『人民日報』2018 年 8 月 22 日。
- ²⁶ “Vice President Mike Pence's Remarks on the Administration's Policy Towards China,” Hudson Institute, October 4, 2018.
- ²⁷ 「蔡英文總統率团出訪帛琉、諾魯、馬紹爾群島」中華民国總統府 HP。
- ²⁸ 林哲全、李俊毅主編『2019 評估報告 印太区域安全情勢』国防安全研究院、2019 年、24-25 頁。
- ²⁹ 「蔡英文總統率团出訪加勒比海友邦」中華民国總統府 HP。
- ³⁰ 「針對與索羅門群島終止邦交發表重要聲明」中華民国總統府 HP、2019 年 9 月 16 日；「總統針對中華民国與吉里巴斯共和国断交發表重要聲明」中華民国總統府 HP、2019 年 9 月 20 日。
- ³¹ 「中華民国第十五任總統就職演説」中華民国總統府 HP、2020 年 5 月 20 日。
- ³² 「台美断交後首簽医衛合作備忘錄 優先聚焦 3 領域」中央通訊社、2020 年 8 月 10 日。
- ³³ 「柯拉克訪台低調中見突破 鋪陳台美未來進展」中央通訊社、2020 年 9 月 19 日。
- ³⁴ 石原忠浩「李登輝元總統の逝去、対外関係の進展、高雄市長補選（2020 年 7 月上旬-10 月上旬）」『交流』No.955、2020 年 10 月、28 頁。
- ³⁵ “Ambassador Kelly Craft's Travel to Taiwan,” American Institute in Taiwan, January 8, 2021.

- ³⁶ Ned Price, “PRC Military Pressure Against Taiwan Threatens Regional Peace and Stability,” U.S. Department of State, January 23, 2021.
- ³⁷ “Tuvalu: Pacific Nation Turns Down Chinese Islands and Backs Taiwan,” *BBC*, November 21, 2019.
- ³⁸ Chris Horton and Ken Parks, “Paraguay Says Chinese Vaccine Offers Tied to Dumping Taiwan,” *Bloomberg*, March 24, 2021.
- ³⁹ Micah McCarthy, “Guatemalan President Stands with Ally Taiwan, Derides Chinese Vaccines,” *Taiwan News*, Jun 3, 2021.
- ⁴⁰ Statements and Releases, “President Biden to Convene Leader’s Summit for Democracy,” The White House, August 11, 2021.
- ⁴¹ Humeysa Pamuk, “U.S. Invites Taiwan to its Democracy Summit; China angered,” *Reuters*, November 24, 2021.
- ⁴² “Nicaragua Breaks Ties with Taiwan, Switches Allegiance to Beijing,” *Reuters*, December 10, 2021.
- ⁴³ Antony J. Blinken, “Nicaragua’s Undemocratic Election,” U.S. Department of State, November 8, 2021.
- ⁴⁴ 「頼清徳副総統率団出訪宏都拉斯共和国卡蘇楚（Xiomara Castro）総統就職典禮」中華民国総統府 HP。
- ⁴⁵ “China angered over Kamala Harris meeting with Taiwan vice president,” *NBC News*, January 28, 2000.
- ⁴⁶ 「頼清徳出席美国祈祷早餐会 與川普及彭斯同場」中央通訊社、2020 年 2 月 7 日。
- ⁴⁷ 「俄烏衝突、兩岸危機與台灣民主」財團法人台灣民意基金會 HP、2022 年 3 月 22 日。
- ⁴⁸ Yimou Lee and Sarah Wu, “U.S. stands firm behind commitment to Taiwan, delegation says,” *Reuters*, March 2, 2022; “U.S. former top diplomat Pompeo arrives in Taiwan, calls it ‘great nation’,” *Reuters*, March 2, 2022.
- ⁴⁹ Jeremy Herb, Eric Cheung, Wayne Chang and Rhea Mogul, “Pelosi says US will ‘not abandon’ Taiwan as China begins Military drills,” *CNN*, August 3, 2022.
- ⁵⁰ 「我軍在台島周辺海空域成功举行実戦化総合演訓」『解放軍報』2022 年 8 月 5 日。
- ⁵¹ 石原忠浩「統一地方選挙に向けた動向、安倍元総理逝去後の日台関係（2022 年 7 月中旬-10 月上旬）」『交流』No.979、2022 年 10 月、6 頁。
- ⁵² 「帛旅專案 頼清徳副総統率団訪問帛琉共和国」中華民国総統府 HP。
- ⁵³ 石原忠浩「統一地方選挙民進党の敗北とその後の政局、兩岸「小三通」の再開（2022 年 10 月中旬-2023 年 1 月上旬）」『交流』No.982、2023 年 1 月、8-11 頁。
- ⁵⁴ Kathrin Hille and Demetri Sevastopulo, “Speaker Kevin McCarthy to meet Taiwan’s president in US to avoid China’s ire,” *Financial Times*, March 9, 2023.
- ⁵⁵ 「2023 年 3 月 8 日外交部發言人毛寧主持例行記者會」中国外交部 HP、2023 年 3 月 8 日。
- ⁵⁶ Joe Cash, Gustavo Palencia and Ben Blanchard, “China opens ties with Honduras, Taiwan decries monetary demands,” *Reuters*, March 26, 2023; Cindy Wang and Debby Wu, “Taiwan Loses Ally of Eight Decades as Honduras Recognizes China,” *Bloomberg*, March 26, 2023.
- ⁵⁷ FPC Briefing, “2023 Summit for Democracy: Progress in the Year of Action,” U.S. Department of State, March 22, 2023.
- ⁵⁸ Press Release, “United States and Honduras Announce Partnerships on Education and Food Security at the U.S.-Honduras Strategic Dialogue,” United States Agency for International Development, January 11, 2023.
- ⁵⁹ 「2023 年 3 月 21 日外交部發言人汪文斌主持例行記者會」中国外交部 HP、2023 年 3 月 21 日。
- ⁶⁰ 「東部戦区組織環台島戰備警巡和“聯合利劍”演習」『解放軍報』2023 年 4 月 9 日。
- ⁶¹ Helen Davidson, “China ends military drills after simulating strikes on Taiwan,” *The Guardian*, April 10, 2023.
- ⁶² 「訪中返台 馬英九：堅持九二共識、求同存異」中央通訊社、2020 年 4 月 7 日。
- ⁶³ Jennifer Rankin, “Macron sparks anger by saying Europe should not be ‘vassal’ in US-China clash,” *The Guardian*, April 10, 2023.
- ⁶⁴ 「王滬寧會見兩岸企業家峰会台灣方面理事長劉兆玄一行」『人民日報』2023 年 4 月 11 日。
- ⁶⁵ 「中米 2 カ国訪問の台湾・蔡英文総統 「断交ドミノ」は今後も起きる？」朝日新聞デジタル、2023 年 4 月 2 日。

PROFILE

五十嵐 隆幸

地域研究部中国研究室

専門分野：東アジア国際政治史

本欄における見解は、防衛研究所を代表するものではありません。
NIDS コメンタリーに関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。
ただし記事の無断転載・複製はお断りします。

防衛研究所企画部企画調整課

直 通：03-3260-3011

代 表：03-3268-3111（内線 29177）

防衛研究所 Web サイト：www.nids.mod.go.jp